

スワミのフルーツジュース



カストゥーリ教授が、かつてご自身がとても苦しんだ話をしてくださいました！

初期の頃、私は休日や休暇中によくここ(プッタパーティ)へ来ていました。この夏は、昔は本当にひどい暑さでした。スワミを求めるなら、その暑さを耐え忍ばなくてはなりませんでした。

夏季には、スワミはよくフルーツジュース(果汁)を召し上がっていました。当時、私は2階へ上がることを許されていませんでしたが、私の母と妻はマンディールのこちら側の(2階の)ダイニングルーム(食堂)へ行くことが許されていました。

ここ(プッタパーティ)へ来る前にバンガロールで買い物をしていたとき、母が言いました。

「そうだわ！ スワミにフルーツジュースを買っていきましょう」

私は言いました。

「お母さん、もしスワミにフルーツジュースを捧げるのなら、まず果物を幾つか買って、その果汁を絞らなくてははいけませんよ。このフルーツジュースは純粋な果汁ではありません」

母はそれを買う決意をしていたので、

「お黙りなさい」と私に言いました。

私は言いました。

「わかりました。では買いましょう」

しかし、心の奥では誰にも知られていないある考えがひらめきました。スワミはそれ(フルーツジュース)を飲むことを拒まれ、私が飲むことができるだろう、と。

それは野生の果実のジュースで何ら不純物は混じっていませんでした。私はジュースを3本買って、プッタパーティに来ました。母と妻は階段を上がってスワミのお部屋に行き、私は階下に残りました。

スワミはお部屋にいらっしゃり、母と妻はスワミのために購入したものをすべて取り出しました。その当時、スワミがお好きだったベテルの葉とコーヒーの粉が簡単に手に入らなかったのも、母はそれらを購入してきたのです。

スワミはおっしゃいました。

「おお！ ベテルの葉ですか、良いですね！ コーヒーの粉ですか、嬉しいです！」

「おや、これは何ですか？」と、スワミはお尋ねになりました。

母は言いました。

「フルーツジュースです、スワミ。あなたのために買って参りました」

スワミはおっしゃいました。

「いや、カストゥーリが欲しがっています。それはカストゥーリにあげなさい！」

それゆえ、母はそのフルーツジュースをスワミに捧げることができませんでした。哀れな私はというと……階下で立ちすくんだまま、スワミがおっしゃることを聞いていました！

「それはカストゥーリにあげなさい」……悲劇でした！

このスワミの手厳しい言葉を聞いて、私がどんな顔をしていたかは想像できるでしょう。それは罰ではありませんが、警告でした。完全に誠実に捧げるのであれば、何もスワミに捧げるべきではない、という警告です。それがアルチャナム、礼拝なのです。

さて、あなたがある花売りの店に行ってガーランド(花輪)を買うとすると、花売りは「1ルピー(約2円)です」と言います。

「なんと！ こんなものが1ルピーだって？ 昨日は8アナ(1ルピーの半分)だったのに、今日は1ルピーもするのか？ 君はずいぶん欲張りじゃないか！」

こんな風に、あなたは花売りと言い争いになります。そこで、花売りは言います。

「わかったよ、旦那さん、(8アナで)持って行ってくれ」

あなたは花売りに悪態をつき、花売りはあなたに悪態をつきます！

そして、あなたはそれ(花輪)を持って行ってスワミに捧げているのです！ その花輪にはどれほど多くの悲しみと不幸が混じっているか、想像してみてください！ 花輪は喜びと共にもたらされ、喜びと共に捧げられなければなりません。

花売りと言い争いをしてはなりません。その花売りは言いました。

「俺は 1 ルピーで花を売ることができたのに、あの男が値切ってきたおかげで、たった50パイサ(1ルピーの半分)しか稼げなかったんだ！」

そして、その花売りは次のお客に、さらに50パイサ上乗せして売りつけるのです。なぜなら、彼はあなたとの取引で、50パイサの損をしたからです。

そして、その花を買ったお客はこう言います。

「なんてやつらだ！ おまえたちは欲張りだぞ！」

そしてまた言い争いが始まります。スワミはそのようなことを望んでおられません。

だからスワミはおっしゃるのです。私たちの真実、忍耐、正直さ、非暴力、愛、慈悲という花々でのみ、スワミを礼拝してほしいのだと。これらがスワミのお好きな純粋な花々です。それが、スワミへの真の礼拝、アルチャナムです。

